

## ■ 本文

むかし、男ありけり。その男、身を要なきものに思ひなして、京にはあらず、東の方に住むべき国求めにとて行きけり。もとより友とする人、ひとりふたりして行きけり。道知れる人もなくて、まどひ行きけり。

三河の国、八橋といふ所にいたりぬ。そこを八橋といひけるは、水ゆく河の蜘蛛手なれば、橋を八つ渡せる〔①〕によりてなむ、八橋といひける。その沢のほとりの木の陰に下りゐて、乾飯食ひけり。その沢にかきつばたいとおもしろく咲きたり。それを見て、ある人のいはく、「かきつばた、といふ五文字を句の上にするて、旅の心をよめ」といひければ、よめる。

から衣きつつなれ〔②〕にしつましあれば

はるばるきぬる〔③〕旅をしぞ思ふ

とよめりければ、みな人、乾飯の上に涙落としてほとびにけり〔④〕。

行き行きて、駿河の国にいたりぬ。宇津の山にいたりて、わが入らむとする道は、いと暗う細きに、蔦・楓は茂り、もの心細く、すずろなるめを見ることと思ふに、修行者あひたり。「かかる道は、いかでかいまする〔⑤〕」といふを見れば、見し人なりけり。京に、その人の御もとにとて、文書きてつく。

駿河なる宇津の山辺のうつつにも

夢にも人にあはぬなりけり

なほ行き行きて、武蔵の国と下総の国との中に、いと大きな河あり。それをすみだ河といふ。その河のほとりに群れゐて、思ひやれば、限りなく遠くも来にけるかなと、わびあへるに、渡守、「はや舟に乗れ、日も暮れぬ」といふに、乗りて渡らむとするに、みな人ものわびしくて、京に思ふ人なきにしもあらず。さるをりしも、白き鳥の、嘴と脚と赤き、鳴の大ききなる、水の上に遊びつつ魚を食ふ。京には見えぬ鳥なれば、みな人見知らず。渡守に問ひければ、「これなむ都鳥」といふを聞いて、

名にし負はばいざ言問はむ都鳥

わが思ふ人はありやしやと

とよめりければ、舟こぞりて泣きにけり。

## ■ 設問 (全21問)

- 傍線部「身を要なきものに思ひなして」を現代語訳しなさい。
- 本文冒頭の「京にはあらず、東の方に住むべき国求めにとて行きけり」について、太字の助動詞「じ」「べき」の意味をそれぞれ答えなさい。
- 「水ゆく河の蜘蛛手なれば」の「蜘蛛手」とはどのようなようすを表す言葉か、説明しなさい。
- 傍線部①「橋を八つ渡せる」とあるが、ここで「八橋」という地名がそう呼ばれた理由を、本文に即して現代語で説明しなさい。

5. 「から衣きつつなれにしつましあればはるばるきぬる旅をしぞ思ふ」の和歌で用いられている、各句の頭の文字を続けて読むと一つの言葉になる修辞技法を何というか。漢字で答え、読み取れる言葉も答えなさい。
6. 傍線部②「なれ」、傍線部③「きぬる」を、それぞれ文法的に説明しなさい（活用する語は基本形・活用の種類・活用形を、助動詞はその意味・活用形を示すこと）。
7. 傍線部④「ほとびにけり」を、主語を補って現代語訳しなさい。また、なぜ人々がそうなったのかを簡潔に説明しなさい。
8. 傍線部④「ほとびにけり」の「ほとぶ」の意味を答えなさい。また、人々が食べていた「乾飯（かれいひ）」とはどのようなものか説明しなさい。
9. 「もの心細く、すずろなるめを見ることと思ふに」の「すずろなる（すずろなり）」の意味を答えなさい。
10. 傍線部⑤「かかる道は、いかでかいまする」を現代語訳しなさい。また、「いまする」は誰の動作に対して用いられた表現か、何という種類の敬語かも合わせて答えなさい。
11. 「駿河なる宇津の山辺のうつつにも夢にも人にはあはぬなりけり」の和歌で、「うつつ（つ）」の音には二つの意味が掛けられている。その二つの意味を説明しなさい。
12. すみだ河の場面で、人々が「限りなく遠くも来にけるかな」と思い、「わびあへる」とあるが、ここから読み取れる人々の心情を、十五字以内で説明しなさい。
13. 「名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと」の和歌について、「名にし負はば」とはどのようなことを言っているのか、「都鳥」という名と関連づけて説明しなさい。
14. 同じ「名にし負はば…」の歌に込められた作者の心情を、簡潔に説明しなさい。また、その心情を裏づける、歌の直後の一文を本文中から抜き出しなさい。
15. 同じ「から衣…」の歌で、「なれ」「つま」「はるばる」は、それぞれ二つの意味を重ねた言葉である。「から衣」という語と関係づけながら、それぞれに掛けられた意味を説明しなさい。また、このように一つの語に二つ以上の意味を重ねる技法を何というか答えなさい。
16. 同じ「から衣…」の歌で、「から衣」は次に続く語を導くために置かれている。何という語を導いているか、また、衣に縁のある語を導く「から衣」のような表現技法を何と呼ぶか答えなさい。
17. 同じ「から衣…」の歌には、「から衣」と関わりの深い「着る・なれ（萎る）・つま（襪）・はる（張る）」といった、衣に関係する語が詠み込まれている。このように、ある中心の語に関係の深い語を意識して並べる修辞技法を何というか、漢字で答えなさい。
18. 「から衣…」の歌の結句「旅をしぞ思ふ」について、(1)「し」はどのような働きの語か、(2)「ぞ…思ふ」に見られる文法上のきまりを何というか、それぞれ答えなさい。
19. 同じ「駿河なる…」の歌の「人にはあはぬなりけり」について、(1)「ぬ」、(2)「なり」、(3)「けり」の文法的な意味（助動詞の意味など）をそれぞれ答えなさい。
20. 【文学史】『伊勢物語』のように、和歌を中心にして、その歌が詠まれた事情を短い物語として記したものを何というか。漢字で答えなさい。
21. 【文学史】『伊勢物語』の主人公である「男」のモデルとされる、平安時代初期の歌人は誰か。人物名を答えなさい。また、その人物が選ばれている代表的な歌人の総称を一つ挙げなさい。